

## 一、大報恩会のご案内

●本年の大報恩会は、コロナの対応として、分散参詣で法要を二座行います。

第一座は、足立区在中の方を中心に受付を行います。第二座は、足立区以外の方を中心に受付を行います。ご協力お願いします。

(尚、どうしても都合悪い場合は、どちらの選択も可能です。)

約30分間の法要を、お席に着いて臨んで頂けたらと思います。尚、コロナ感染予防の為途中退座することもかまいません。その時は、本堂正面で各自焼香し、本堂内にある御塔婆を持って、各自お墓参りして下さい。

●日 時 五月二十八日(第4日曜日)

第一座 午前九時半より午前十時  
(足立区在中の方を中心)

第二座 午前十一時より午前十一時半  
(第一坐以外の方)

### 花売りだより

報恩会当日 東陽寺境内で一束七百五十円にて売っております。他より購入することなくご利用下さい。遠くからいらつしやるお檀家様の為にも、今後長く境内で販売が出来る様にご協力をお願い申し上げます。  
今回は事前にハガキ申込みをお願いします。

●当日は、コロナ感染予防の為に、全員受付にて検温をお願い申し上げます。

●当日でも御塔婆の申込みを受付します。その場合、御塔婆は、お振込の方と同じく後でお寺が、お墓にあげておきます。

●参加者全員に受付にてお赤飯を配ります。必ずお持ち帰りください。

### ●その他

例年のように報恩会の法要料として5千円(回向及び塔婆料含む)を当日来寺のとき受付にてお願い致します。  
都合により報恩会においでになれない方は、同封の郵便振替用紙にて皆様ご送金をお願い致します。  
当寺にて御塔婆を上げ供養させていただきます。

尚、お塔婆申込み並びにお花購入を同封のハガキにて  
令和五年五月二十三日(火)までにお知らせください。

## 二、東陽寺 鶯（うぐいす）の会

私の曾祖父 卍禪子和尚は鶯の世界では、かなり有名人であった。浅草時代からの御檀家様のお話ですが、正月の元旦の朝にNHKのラジオ放送されるオープニングとして、東陽寺の鶯の声を流したそうです。

また、東陽寺の展示場に飾ってある鶯の声の帝都鶯會の表彰状で、『昭和十二年五月二日 第三回文字口鶯大會』

第二部 正ノ一 伊興町 西垣 寢覺  
審査員 西垣隆満 とある。



そんな折、平成三十年庫裏建替えの引越の時、ふとした事より卍禪子和尚鶯の世界を発見しました。今回この発見『東京文字口鶯「明林会」会報』『睡鶯子記録』を皆様にご紹介します。

『東京文字口鶯「明林会」会報』第一回 昭和四十年三月十五日 創立総会の議事録によると、文字口鶯に保存を第一の目的としてアマチュア愛鶯家へ呼びかけと文字口鶯の復活とその実践が目的と書かれている。

発起人は四名（小林鍵次郎・植田末蔵・松崎榮・西垣隆満）東京文字口鶯「明林会」規約 を卍禪子和尚が素案を作り、二十三名の入会者あり、理事長一名・副理事四名・庶務会計三名で発足されている。

「明林会」の理事長には、祖父の卍禪子和尚が就いている。鶯の鳴き声で三階級の資格名が付けられている。

文字口鶯の鳴く声に照らし審査員が三階級の資格名をその鶯に付ける組織が「明林会」です。「明林会」の審査員は、五名で任期一年とされている。

鶯の鳴き声で三階級の資格名とは、  
『正ノ一』 文字口鶯の鳴く声が三つ音完全なもので、特に節の優良なものとしていいる。

『東京一』 文字口鶯の鳴く声が三つ音であって、三つ以外に多少のキズとか、問題があるものを言う。

『準ノ一』 文字口鶯の鳴く声が三つ音であるが、特に文句に多少の問題がある鳥を言う。



『睡鶯子記録』

この記録には、明治二十六年頃 高木子爵の研究により鶯の鳴き方に「弘仮名口」「惣兵衛口」「種屋口」と有る。この鳴き方をカナ文字で表現すると

「弘仮名口」

- ① 上げ ヒヒーホケキヨ
- ② 中 ホホーホケキヨ

「惣兵衛口」は、「弘仮名口」と同じ鳴き方の

- ① 上げ ② 中 で表され

「種屋口」

- ③ 下げのみ違うものを「惣兵衛口」と言う
- ① 上げ ヒヒーホケケオウ
- ② 中 ホホーホケケオウ
- ③ 下げ ホ・ホホホホ ホケケ オウ

と表現されている。

この記録の中に鳴き方をカナ文字で表現する変遷の記述もあります。

国静時代 (明治二十五年頃)

大正末期

昭和五年頃

昭和十年頃

- ホケケオウ
- ホケケコウ
- ホケケココ
- ホケケエコロ

『睡鶯子記録』の最後に

節と歌詞とはあくまでも種屋の正統性とする変化であることを必要とする。つまり文句への文字口の理想(イメージ)を持たなければ意義がなく現代にあつては国静の鳴のイメージを種屋口として、江戸時代からの芸術的伝統を受け継ぐ為の附子の研究・テープにおける研究が必要であることが痛感されるのである。それにしても、伝統をいかに正しく伝えるかの、いかに難しいかを今さら思うものである。

と締めくくつてある。今でも毎年春になると卍禪子の放った鶯がやって来て、声を聴かせてくれます。

### 三、東陽寺六大ニュース

令和四年を振り返り、住職独断の東陽寺六大ニュースをあげてみます。

第一位は、無縁墳墓の対応について

浅草から足立区に移転後、初めて実施。

対象墓 10家

【1年目の対応】

・対象者と関係者の調査・同意取り付け

【2年目の対応】

・官報掲載

・対象墓に通知を一年間掲載

【3年目の対応】

・区役所からの改葬許可書

・釈迦堂移転

・墓の解体・整備

第二位は、ホームページの利用促進

①住職の独り言と題し、月一回更新。

②法要配信。コロナの影響で参列できない人の為に活用。

③坐禅の勧め。家で簡単に出来る坐禅・イス坐禅・歩く

坐禅・上級編と内容を充実。

④年回忌法要・塔婆の申し込みに利用。

第三位は、コロナ禍であったが、報恩会・施食会を二座に

分散して実施。

第四位は、コロナウイルスの蔓延により、本年度の檀信徒

研修会が昨年に続き中止。

第五位は、ウクライナ人道支援及びトルコ・シリア地震

災害支援の為に寺として、今年も昨年と同じ

赤十字社に30万円寄付。

第六位は、新檀家様ご紹介。

本年度は、5名の方が入檀しました。

依田修 様

松井碧 様

箕輪竹志 様

鈴木ひさ 様

三浦武広様

引き続きご親戚や近所の方等、良い人を寺にご紹介下さい。

以上が令和四年の東陽寺 六大ニュースです。